にたたす鋭

よ化眼るい眼

る学の鋭物外

物的異的で傷

理損物外眼に

四

· 、 薬 品 目

外類にり球線が物刺打

や飛がし

熱入入た

等しつり

た角物な膜性時

い膜理の障

をは、

た眼

り球

切

傷 的

ゼ 傷

損

が

あ

IJ

ま

眼 の けが

眼 科 医 長 次

郎

く弾害業こたれ網 るがは較こ とも野球のによる りて膜眼、い剥球 さ的 り物とそみ稀で 危あ最る離 で あ球の 打 ほ大あもナすり・ ほお険り悪骨を撲 イがまサかもなまのへ生はフ、すッ、ち作す場眼じ、 何 ッ す場眼じ。今窓た フ、 す。 ち作 カスや業。合窩た眼かの中交眼壁り、ので、鉄の通球)、の や業 稀り鋭 に針的で 眼栗や外はツ砲事事破が眼出 裂骨球血す折をや にの針傷重でへ故故 刺い金は症も B 比の多B傷林るし入 さが

しなにでかれす閉危

少の

も h 平

まん時気しそりを

恐打に援

し、主 程

įı で

け反

が射

ではありまれ合体から見れ的に手でな

もの

せ

のたをは

り、察直

す

ると

瞬

で間

見防的

れいに

ばだ眼

ょ

っはす

眼かが、

つ

て IJ

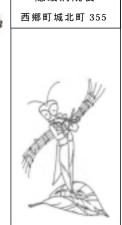
9むことも1 眼は痛い-

Ĺ

あ

'お話しし'

ぼ のはがれ 林 水 風 産 で 建砂



発行責任者 隠岐広域連合立 隠岐病院長



く物ま物 す。 が中業 目に そ ŕ に様の 入々他

す花のう

までけす

レ々はで

Ⅰ 重 稀 注

イう、下 ン人打さ

タがちい I い上。

にまげ眼

すし

7

膜た時どの

古も大変危k-ザーポイ.皇症を負う.--

障

火やで

内いい異ぶが眼 での症 す たのり奥 り奥 金 が の b まにま属 強 ウ ま す 入 た 加 が っ コ エ 虫 う ラ خ に ン作重 うろこ、 た 隠 たとタ業症い心ク中の ず片が、 も が トのこ あ ほ砂 て配 いいさレ鉄とり貝 ے まはれン粉もま殻ん木植りな作

で

う兄家近よえ拾ら危う溶|すけ|エで

る破で眼た当するりろす上るズ異あこっ角に刃た。眼払し。ま方が物る

ĺ 当がっ石 ۲ て膜 て障的で害 あ学 い害損細でダり的も眼をた高てな異機の物はが傷心、、、損あ内突る速欠ど物にが死不してのア石中傷りにきのでけにでよ刈恐 ばは注ル灰ではまま れし、意力なも薬 なば溶がリど重品 で 人あ接必はに篤を がり作要大よな扱 で変るのう なま業 失 るすです危角は人よ。の。険結节に 明 険結苛に ത ょ

ソ々化

COB た

o t

〉。ち庭距う玩うな険に接ド でグす 内離に具もいなし 作し溶ほルるるろ でのよのまもでうでし τ し で で 業 接 とを際物 h の事故でするは威力があるようとも子どもに したく作また。 で、 く作んかはも で こに、よっ。 · 決だ業どけ しさ時危ま す。 弟事威 限に使の故力 ずりげ かし用眼 ていは険し眼まま レ まし Ĺ U つてはを に τ 栗 必は よ鏡 すぁ 直 す。 В 最眼厳撃 ~ り ゼ 、 ザょ見い視まずな う。あっ В ĺ えもを う上がした顔 つ 5 う多弾せは、げはな他面なこい属、 もくはなた栗て大い人をりれはを予 て ま重けに がす よなしべまおは至いとは採変よのガまだゴ加防

次 1 ジに続く ょ そにカの道めやです手く眼で大場合に

です。

リが水 の良を

は思眼

分以

上 特

い直

大一いにスし切○ま勢やた

と接ホ濡思眼ーら

すいシく

ょ

<

受徹にかしで診底アけでは

は的ルる水だ

ヤ

ワ い I で

5

切

うことが

で

す。

骨根配症で骨折しやすい部位

で

眼ま

切

にして下さい

大のに

険はなるべ ようなけ

避

け

きこの

が

があ

1)

す。 に粉のこに必ど 、 角異上と穴でした。 受 つをは科ああま溶角受りい をは科ああす眼 外 て でか膜診まて眼傷

新 IJ I ズ

の骨 骨が 粗 折れやすく に なると、全身のすべて 、なるのですか?

ッり骨 りやに ます^に すい ず。 部

大

療防すよみたば骨へ位骨椎がながど。こらきな折毛部頸(あり 腕の付ける。(足の付ける) め 併 き起 よす。骨折は見いてれがきったいです。人院して治療して治療がある。 のに骨粗鬆症が症であるの E さ れ 骨折を 症 る る合料例がある合料のである。 っ療大橈 の 予 骨 併鬆もけな 未 然症症多でけ頸位骨 でにく寝れ部部近 治に

維

持す。

ま

まれうすはち

が四のに、○最増

ナそ 歳 大 え 量 ま

もろく

脊 位 す根け腿 上 骨遠腕

激な

れその急とよれる

八

割 を

め

みれ

るてらて数 骨いれい百

で

す。

かもた 平ら 増 と 寿 均 病 とくに、 これでいい。

多い推症 くわ計の 者 さ ま万ん

こ

齢に

患者さんは増えているのですか?この頃よく耳にする「骨粗鬆症」

10月8日は

骨と関節の日

历人 1000 Ь١ 19904 19984 20004

っ低骨しすい減確でし性しくにれ代骨ではす。 てく量で。きっ実すづも、減大以ご量二、。体 もなが、そまてにがつ少男少き後ろに〇一骨の まな歳のほびのは、 なが、まな歳のほびのはです。 なが、まな様のほどは、 生は別圣 つ

粗鬆く 症とい. います。 ます。 な る 病

> **よくなるのですか?** す防年。対験 対

鬆症は予防や治療をすれ

ば

ざ鬆 れだる は する 骨 Ų 症 のまばぞ す。 防の 骨四し歳発五効年 量○な代見○果齢 い以 よ降早以 うは期降げ

す導療骨低たを倒療はこに量もま予。後機量骨らつ予を骨と対ににす防 今受関の量、け防め粗が応、変。対 一分の向持 関の 受け がにか危かかは、 な低 まなしど で年 減ら険わら に あ 下 ること 薬に に 著 か ょ し か をお い閉 ı) 場 経 合のは影 を歳 療 響り過 ぎ気転治でる切

す分を骨加を

の半折へ維

ら数性せ増

_ 日

したの

で以下に たちに感想

抜

坂粋して掲載

ま

いま生す触ぞがま生

ること

たと

思の

した。

1看護体験なことができ

を ㅎ

えたあと、

なり

ま

れれあしの当

今年もありま

のりた。 体、。一で験生島日本 映を通して看護の 生徒さんたちは、 時内より四十名の 日看護体験」を実 は今年も中学生・ の 実 い心そ参施高 まにれ加し校 くまれしした てま時 いしは赤 てた。 体ちがや 。もっともっと言われた、すごーくうれしくなりて「ありがとう」と言わた。患者さんのお世話を体が柔らかくって超感動ちゃんを抱かせてもらっ

た。もっともっと言

西 中 Y さ

いと感じましたこの体験で看護していなーに で なし婦してさ 米年もまた来いたないました。今を見て、かなった。今

かとうございと制服を対

たいと日っ事

れ

て

看

ま護い着

西 郷 中 Y さ

西

郷中Tさ

にってて んだろうと不思議な気持ちのたくさんの人と仲良くな仲良しな感じで、どうやっ看護師さんと患者さんはと た。

西 郷中Sさん

岐

水〇

まけ

る日

がく

を

待



師 笑 て

に顔いて なはきくこ で、る仕まで、るななに

れすな優

であ私笑

看葉日か護としえ

のは顔

言毎が

し

L١

なねら、

L١

す

め見た悩勉し直

. る。

さ

さをとり だけで、_卑 まして、 てく てくれるすごい4 看護師は、体も 少し 患者さんの不安め 除い たりで 仕事だと も心も元 きるか 思気な寂わ いにんしす

かくって起れ

たりわを動

S さ

若心十しルえ十たにの いは二たさな二。出お さな二にい歳 一歳に に の に 元 に 歳 年 驚 け は も ま し し ま し し ま し し ま し し ま し し ま し し ま し し ま し ん 々



た。 感じ

言ってくれたおいな、と感 なんだかうれしい気 てくれたおばあさ[・] る ら時「最心じまし あ、 高た。 さ ん ! 持 にいて毛

> の 貴重 日 ちょ つ

てにいの れ明ん姿ぴ い働か豊そまるののり夏 された。 された。 がなにして がなた。 で若むして でもして かな私たいる す。 I 者 が て ŧ るト 近い 風をなが にち?) にさんた こいるこ と将なん レー たち。(来んな てに 嬉 感 し緒し性

えが、た、 ん強たに ると思 たので、 が、はっき だり、不 の 日今看 日 は、 セ 護 っきりと将来のこと々で、息詰まったりは、学校に入るためは、と思いま ます。 思う存み 体 いして 分来の て 強 て、 に と が し まりめい にま素

Ν さ がるど **重** あなに包**大誤**

ど突装な

大刺 上害飲

食

ま重きシ傷

ヾ

招穴道

くをや

こあ胃

とけな

害

を

つ

て

h

でし

まうと

健 月 月 間 は

おくす りを 服 用 さ れ . る皆 樣

て 最 **え 包** く 近 **て 装** ١J シ ĺ す 卜 の 誤 飲 の 例 が

でっ まく近、 うす、い 例り包**ま** がと装 増一シ え緒ー てにト い飲の まみま す。込ま ん誤

Tea タイム

場に放きないよ

法關心盡心。

病院にはありえないもの... ポペトカード 堂で食べ 分間 TOOSE XHOR 分く触と少い 象果

す飲用なあ **り** 。みしがわ年**・** 込たらて齢が、服てに で 飲 服てにす の む な用服関! 原 こ どし用係 لح こ、ついった。いった。 は が 多 いうい会外よっ所話出 L١ うっ うかでを時 でり服しに

薬リシでーかだ離し・錠り 錠り ず誤 つ飲 小を う避 く け 切る りた 離め

* * *

佐小金

西子

け洋

々

木あ

学み

たた用どさ **さに** 包め、ても切装**い** なない。 タく 一テだだ離 トのさけさト が分いをなは 多割 取い い線誤りで一でを飲出、錠 でを飲出 錠 す廃防しそず 止止てのつ しの服つ小

上本 百 合 武 枝 \sim 臨臨 時時

九月ま



臨臨診 射 主 任 九月まで) 動

因

つ

村 坂 退 事 警 務備 員員

* *

時時療 放 警准 備養護 線 師

ご作人多病さと間ばの水か強っも族を詰は族かイ母梅介 覧品にく気を正で生よがせさて広の受め のっマ政 にで感のや教面すきうなるはもが絆けら精混た「子との先なす動人介えか。てにい梅ま心っに入れ神利。刑へい問日 型へい問日 てにい梅ま心っに入れ神乱 動人介えか をに護 とのるはてなれて的に止痴吉う題 てら困ゆ で変ゆり、 < 起だこう況弱理し、 す。 れま人分で、 なあご見上健 さ あこ 体 原 いれと てせは自 あ的 いるがまげ康 田 で映と中もがましもん病身そりにな画のでまなうか花。気のれのも 病こアした福 美 で多な画のでまなうか花 気のれのも 状とルた 枝 くくは大 たけ植しをそに世がま追 とがツ き 折 祭 しをそに世かま垣子とかり、折奈、咲のな界家まい)家わハ義りで 非るの 切人人れ物